

福島県歴史資料館 本間宏さんのお話（平成 23 年 3 月 15 日午後、歴史資料館
にかけた電話で会話）

職員全員無事です。もっとも、家族の安否が確認されていない職員がいます。

固定棚の 7 割方の資料が床に落下しています。固定されていない棚の場合は棚ごと傾いて、資料はそこから床に落ちています。床は濡れてはいません。古文書は保存箱ごと落下しているので、中の資料は傷んでいないようです。

施設的な被害としては、展示室のガラスが 3 枚、執務室のガラスが 2 枚割れています。建物と建物をつなぐ戸外の通路にひびが入っています。建物自体も何だか傾いているような気がします。本当に傾いているのか、それともそういう気がするだけなのかどうかはわかりません。建物が崩壊していないことだけは確かです。

臨時職員は待機させ、本務職員が交代で出勤しています。ガソリンが入手できず、車はいっさい使えませんので、歩きか自転車、あるいはバスによる移動です。ええ、バスは走っています。施設再開のめどはいまのところたっていない。夜間は、ガラスの破損もあり、機械警備もできないので、保安のため、職員が交代で宿直をしています。最初の地震の翌日から電気は通じていますが、漏電が怖いので、懐中電灯を使っています。ただ、比較的安全な場所を選んで、そこを仮の執務室にしています。そこは電気をつけています。普段は、楽屋に使っている部屋です。

県内類縁機関の状況はつかめません。特に被災のひどい浜通りは、町ごと津波に持って行かれたりしていますし、また福島第一原子力発電所の周辺は、いま東電の関係者と自衛隊しか入れません。消防も入れませんので、不明者の捜索もできない状況です。

ボランティアはしばらく待ったほうがよいです。来ても戻れなくなります。放射能の心配もあります。今、最も必要としているのは情報と生活必需品です。全国では福島県の状況も報道で確認できるのですが、被災地だとかえって情報がありません。いちばん切実なのは水の確保です。コンビニやスーパーも商品は品薄で、そこで水を手に入れるのは難しいのです。

さきほど申し上げたように、震災の翌日から電気が来ていますので、仮のホームページを立ち上げてあります。また、歴史資料ネットワークにも情報を載せていますので、ご覧ください。

いまお話したことを全史料協会員の皆さまにお知らせくださるとうれい
です。

福島県文化センター仮ホームページ

<http://yamagatuko.sakura.ne.jp/bunka/newpage1.html>

歴史資料ネットワーク

<http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/>